

「ながいも物語」

浅間連峰を一望する信州佐久の台地で

春の章

さわやかな5月の風が高原を渡る

準備の整った畑で播きつけが始まる

確かな成長を祈りながらひとつひとついねいにおいていく

ちよっと心配になるくらい遅い芽吹き

やがて土を割ってカオを見せる

ほっとしながら「頑張れ」ともう一度祈る

夏の章

ネットいっぱいに蔓が伸びハートの葉が繁る

強い陽射しと恵の雨を受け止める

大きく育て 思わずエールをおくる

畝間の雑草たちも競ってのびる

ながいもの根は浅いところにある

根を傷つけないように草取りも手作業だ

秋の章

むらさきの浅間を背景に葉が黄金に色づく

はやる思いを抑えその時を待つ

幾度かの霜が掘り取りの合図だ

もう冬がそこまで

かじかむ手を温めながら深さ1メートル

きずつけないように慎重に掘り取る

今

豊かな自然と大地に感謝するとき